

春、
夜中の暗号

宮園
瑠衣子

■登場人物■

男
女
ネギシ

一幕

古びたアパートの一室。壁には三月のカレンダーが掛けてあり、赤いカーで日付の三十日まで×で消されている。毛布から女の足だけが出ていて、顔は見えない。そのすぐ側にいる男の右手には幾重にも巻かれた包帯。

女 (咳き込む)

男 ……!

女 ……首が、

男 ……。

女 ……なんか飲みたい。

男 うん。

女 ……冷蔵庫、開けっ放し。

男 ……どの……?

男、出る。

女 開いとらん?

男、右手をかばい、左手で水の入ったコップを持って入る。

男 閉まっとうよ。

女 何時? 今。

男 十一時、過ぎた。

女 ……うん、朝？

男 (コップを渡し) ……まだ、朝じゃなかよ。

女 (受取り一気に飲み) ……血の味する。

男 ……。

女 あ、溺れんように嚙締めとったんかな。

男 ……。

女 おかしな顔。

男 首…。

女 寝違えたんかな。なんか、真っ黒な水に浮かんどって、沈ま

んように、こうやってずっとかいてたんやけど…。

男 湿布、貼ろうか。

女 あんたのせいやん。こんな硬いところ。背中だって痛いし、

だけんおかしな夢ば見るとよ。

男 ゴメン…首。

女 触らんで。

男 タオル、敷こうか？ 少しは、

女 そんなん敷いて痛くないなら、初めからそうしとるし。

男 うん。

女 (コップを渡し) 水、飲みたい。

男、コップを持って出る。

女、カレンダールの最後の日付に×を付ける。

女 なんで今日、付けてなかった…。

男、コップを持って入る。

男 (コップを渡し) ……夢って？

女 (飲みながら) ええ？

男 さっき、おかしな夢ばって…。

女 (コップを渡し) ……沼、ううん海やったんかな。引っ張ら

れるように沈んでって…溺れたんやね。

男 ……。

女 当たり前の事ができんかったりするの、なんでやろう。

男 ……。
女 私、中学の時水泳部やったやん。
男 うん。
女 ……。
男 うん？
女 ……うん。泳ぐのも走るのも得意やったのに。夢の中じゃ
……話したっけ？
男 なんを？
女 私、水泳部やったって。
男 ううん。

男、グラスを持って出る。

女 そう？ 昔はできとったのが、今はできんとか、年のせいとか、そんなんじゃないかって。

男、入る。

女 当たり前前なのが夢じゃできんかったりするやん。
男 ……当たり前のことって？

間。

女 深く考えんでよ。ほら、空飛んだり、瞬間移動なんて簡単にできるやん。
男 できんよ。
女 ……夢の話やもん。
男 そんな、空飛んだり、瞬間移動とか。
女 一度も？
男 夢自体あんま見らんし。
女 私、毎晩見るけど。
男 毎晩って、そんな見よったら疲れるやん。
女 夢が？
男 あ、いや。なんとなく。
女 ……。ねえ、そっちは、中学の時。

男 え。
女 部活、何だったか。当ててみようか。

男 いいよ。

女 運動系やった？

男 いいって。

女 野球部。

男 ……。

女 サッカー…：陸上？ ……：テニス…：な訳ないか。

男 テニスっぽくない？

女 テニスっぽくない。

ふたり笑う。

女 でもグラウンドにおったでしょ。

間。

男 （右手を擦りながら）おらんよ。…：帰宅部やったからね。

女 そう…：。（男の右手を擦る）お昼にね…：中学生やったんかな。ふたりおつてね。ひとりは学ランでなんか、大きいバックと、こう…：長い棒を持つとつてね。

男 長い棒？

女 もうひとり普通の洋服を着とつたん。途中で女の子がふたり合流したとよ。しばらくしたら、女の子のひとりが泣き出してどっか行ってしまつて、そしたら…：。

男 そしたら？

女 残った女の子がおるやん？ その子が長い棒を取り上げて、その棒でさ、その学ランの子を…：バシっ。

男 なんの話。

女 その下の通りで、

男 出たと？

女 窓から見ただけ。

男 へえ。

女 叩いた女の子も、走ってどっか行ってしまつて、ふたりの女の子たちも笑つてどっか行ってしまつた…：。

男 ふうん。
女 …… 気にならん？
男 え？ …… ああ。棒って竹刀のこと？
女 竹刀かどうかはわからんけど、そうじゃなくて…。
男 剣道部のマネージャが部活に来ない部員に気合をいれたと
か？
女 ……
男 うん？
女 ううん、面白いね。
男 なんが？
女 女の子たちは、その学ランの彼に実は二股かけられとって、
それが事実なのかどうかを詰め寄ってたりとか。親友を毘にはめ
た男を制裁のつもりで棒で叩いたけど、実は主犯は洋服の彼で、
男 怖いね、中学生やろ。
女 なんかそんな雰囲気やったけん。
男 …… 本当のことはわからんやろ。
女 …… なんて学生が昼間にうろろうしとるん。
男 なんて？
女 春休み。
男 春休みね、そっか。…… 咲いとうかな。桜。
女 ここからは見えんよ。
男 咲いとう？
女 （擦られていた手を引っ込める） どうやったかな。
男 ……
女 桜の下は冷たい風が吹くけん。
男 外寒い？
女 そうじゃなくて、桜の花の下には冷たい風の通り道があって、
女 ふふ、まるでお化けが出るみたいやね。柳の下じゃあるまい
し。
男 ……
女 ……

女、横になる。

女 ……冷たい風が吹いたとしても、そんなん気にならん。
男 ……。

ドアを叩く音。

男と女、顔を見合わせる。

ドア越しから男の声。

ネギシ 俺、ネギシやけど。

男 ……ネギシ？

ネギシ おい、おいおいおいおい。

男、ドアの前に立つ。

男 ネギシ？

ネギシ おお。

男 どうしたん。

ネギシ だから、カニ。

男 ええ？

ネギシ だからカニ。

男 ダカラカニ。

ネギシ ちよ、早く開けてよ。

男 今、ちよっと。

ネギシ ……。じゃ、準備できたら呼んで。そこに立つとっけん。

女、毛布を頭から被る。

男、女の上へ洗濯物を乗せる。

男 (ドアを開けて) 悪いけど、今、ちよっと。

ネギシ (部屋に入り) おお、元気やった？

男 おお…。

ネギシ (部屋を見渡し) なん、もったいぶって。

男 なんか。

ネギシ 隠しとってから。昨日。

男 昨日？

ネギシ ま、とりあえず入って。早く。

男 ……。こんな時間にどうしたん？

ネギシ （手紙を出し、咳払い）「ネギシくんへ。お忙しいところ面倒をかけてしまってごめんなさい。あの子はしつかりしているから大丈夫だとは思うのだけれど、ずっと連絡が取れないので、何かあったのではないかと心配でした。病気も怪我もなく、弟が元気に働いていると聞いて安心しました。本当にありがとうございます。あの子はネギシくんのような友達を持って幸せな子です。どうぞこれからも仲良くしてくださいね」ここ見てん。ネギシくんのような友達をもつて幸せな子です。私も幸せにしてくださいって。

男 そんなこと書いてらんやん。

ネギシ うん、書いてらんかった。

男 それで。

ネギシ ああ、昨日さ、わざわざ会社宛に送ってくれてさ。

男 ミツイ保険？

ネギシ うん、タムラがさ「鮮度が落ちるから、早く食べたほうがいいと思うんだけど」とか言ってる。

男 カニって、カニ？

ネギシ おお。

男 ……自慢しに来たと。

ネギシ 一緒に食べようと思ってる。

男 なんて。

ネギシ なんてってカニ、好きやろ。

男 好きとかの問題じゃなくて、その弟って奴と食べるや。弟と一緒に食べて欲しくて送っとんやろ、そのお姉さんは。

ネギシ おお。

男 そやったら、

ネギシ ユキエさんの頼みやけん、来たんやん。

弟 姉ちゃんから？

男、ネギシから手紙を奪う。

ネギシ 北海道のカニやって。ユキエさんって、字も綺麗なやね。

男 （手紙を読み続ける、生返事）

ネギシ、部屋を見て回る。

男 これ、いつの？

ネギシ ええ？

男 ちよろちよろすんなって。

ネギシ ああ、昨日。わざわざ会社に送ってくれてさ、って今言
ったやん。そしたらタムラがさ、タラバとズワイの違いを熱く語
り始めてそりやもう。……お前、手、どげんした。

男 ああ、ちよっと。

ネギシ 事故った？

男 違うよ、ちよっと転んで。

ネギシ ちよっと転んだって仕事は？

男 なんとか。

ネギシ 行きようとか？

男 行きようよ。

ネギシ でも右手がそれじゃ、運転できんやろ。

男 運転だけが仕事じゃなかし。

ネギシ 他になんかあると。

男 伝票の整理とか、電話で受注もするし。

ネギシ それだって右使うやん。

男 俺、左利きやけん不便なかし。

ネギシ ハ？ お前サウスポーやったつけ？ だって、グローブ。
辞める時、俺貰ったやん。

男 はあ？

ネギシ いや、実家に……。そうやった？ まあ、たいしたこと
ないなら、別にいいんやけど。

男 たいしたことないって。

ネギシ ……熱は？

男 熱？ 熱なんかないよ。

ネギシ 喉が痛いとか、吐き気がするとか。

男 なか。

ネギシ 怪我はあるけど、病気なし、仕事に行ってる、元気と。

男 (手紙をつき返し) ……カニお前に全部やるけん。

ネギシ なんて。

男 ……。

ネギシ ひとりで食える量じゃなかった。もう解凍しようけん早く食べんと。…腹の調子が悪いとかじゃなからうね。

男 違うって。

ネギシ じゃなんで？

男 ……

ネギシ 「大勢で食べた方がおいしいと思うんだけど」って、あ、タムラがね。あいつは自分が食べたくて言っただけやけど。

男 誰？ タムラって。

ネギシ ああ、タムラは無視して。あいつとメシ食うとか有り得んから。

男 ……

ネギシ せっかくさ。昨日だってタムラをスルーして来たのに、肝心のお前がいないって、

男 ああ。

ネギシ 言われたから。

男 誰に。

ネギシ 誰に。女の人。

男 会ったと。

ネギシ おお、ドア越しで。こんくらいの際間からちよつと見ただけやけど。ああ、呼ぶ？ 三人で。

男、ネギシをドア口へ誘導するも、ネギシは抵抗しながら。

男 いや、カニはお前にやるけん、今日は帰って。

ネギシ ユキエさんがお前と一緒に食べてって送ってくれたんやん。

男 その手紙だって、本当に姉貴が書いたもんかわからんし。

ネギシ はあ？

男 だいたい、どうしてお前に連絡してくるとや。

ネギシ それはいろいろな事情ってのがあやん。

男 ……なんや事情って。

ネギシ バカ…言葉のあやだろ。

男 詳しい話は今度聞くけん、今日のところは。

ネギシ ユキエさんになんて言ったら、

男 そんなんいいけん。
ネギシ なんてそんな冷たいと。

ふたりもみ合いの末、隠れている女に男ぶつかる。
ふたり同時に。

男 (女へ) ゴメン、大丈夫やった？
ネギシ じゃこのカニどうする、

女を見て驚いたネギシ、四つん這いで部屋を出て
行こうとするも、振り返り。

ネギシ あ、昨日の？

女、ネギシに頭をさげて挨拶する。

ネギシ (男に) おるなら、おるって。
男 ……うん。

ネギシ (女に) 昨日は、なんか失礼ば言ってしまったて。

女 いえ。

ネギシ (男に) 俺勘違いして、お前の……ほら……と思つて。

男 ……。

ネギシ すんません。

女 いえ、もう。

ネギシ すんません。

女 ……。

ネギシ じゃ、俺帰るけん。

ネギシはカニの入った箱を抱える。

ネギシ 来週カワシマの、なんだあれ、昇進？ 出世祝いするか
ら。来週の金曜。(女へ) 良かったら、一緒に。

女 はあ。

男 カワシマ？ すごいね。

ネギシ あんな仕事辞めたい辞めたい言いよったのに。

男 カワシマが？

ネギシ ほら、この前の同窓会。二次会で。

男 そうやった？

ネギシ テツが仕事辞めて美容師になりたいから、専門学校に通うって話になったやろ。

男 ああ。

ネギシ その話ば聞いたとたんカワシマが仕事辞めるって叫んで泣き出して。最後ポロポロで呑みよったやん。

男 ああ……。

ネギシ みんな笑いよったけど、あん時、俺もさ……。

間。

ネギシ (カニの入った箱を置く) 良かったらこれ。ふたりで食べて。

男 いいって。

ネギシ 俺ひとりで食うのはアレやし……。

女 私、構わんよ。

男 え。

女 せっかく持って来てくれたんやし。

ネギシ ほら。

男 うん……。

ネギシ あん時の居酒屋の店員、俺らのこと相当迷惑そうな顔で見よったね。

男 ええ？

ネギシ (女に) 二次会の居酒屋で、男ばかりで大合唱してね。

(男に) 卒業式に歌ったやつ、あれなんやった？

男 ……校歌？

ネギシ じゃなくて、(鼻歌で) ……サライ。

男 サライ。

ネギシ あれテツが言い出しっぺやろ、サライ歌おうって。

男 そうやった？

ネギシ そうやったって。うん？

男 なん。

ネギシ お前二次会おったっけ？
男 おったよ。
ネギシ おった？
男 おったって。
ネギシ そう。(女に) カニ好きですか？
女 はい。
ネギシ ボクも。どうやって食べる？
男 どうやってって。
ネギシ やけん、カニしゃぶとか、カニ鍋とか。
男 鍋なんかなかよ。材料もなかし。
ネギシ あのホテルで食べたカニグラタン旨かったなあ。
男 ……？
ネギシ 同窓会で、あの高級ホテルの。
男 作れんし。
ネギシ まあな。……じゃ、そのまんまで食うか？
男 あのさ。
ネギシ おお。
男 姉貴となんで連絡取りよると。
ネギシ 言っとらんかった？ ユキエさんうちの顧客やもん。保
険、入ってもらった。
男 初めて聞いた。
ネギシ そうやった、会うの一年ぶりやもんね。
男 姉貴が、お前んところの。
ネギシ おお。
男 いつから。
ネギシ 去年の、四月、たまたま地元に戻る用があったけん。そ
ん時に。
男 もしかして。
ネギシ え。
男 同窓会の時、姉貴まだ実家におるかかって聞いたのって。
ネギシ 違う違う、違う違う。
男 ノルマとか。
ネギシ ……ああ。仕事？ 俺ノルマとか全然気にしとらんけん。
あ、(女に) ビール呑みませんか？ カニとビール。最高でしょ。
女 ビールですか？ ええ、まあ。

ネギシ　せっかくだから、ねえ、ちよつと呑みましようよ。
男　残念、ビールもなかけん。
ネギシ　コンビニに行けば買えるやん。(女に)すぐ近くにコンビニがあるのになえ。

女　さあ……。

ネギシ　左に曲がった角のところに。

男　ああ、うん、あるよ。

ネギシ　金ある？　出そうか？

男　いいよ、それくらい出すよ。

ネギシ　悪かねえ。

女　私……買って来ましようか。ビール。

男　なんで。

ネギシ　なんでって気つかつとるんやん。

男　俺が行くけん。

ネギシ　こんな時間やし、女の人危ないかも。

男　じゃ、行こうか。

ネギシ　俺？

男　行こうや。

ネギシ　え、一緒に？

男　うん。

ネギシ　子供じゃないんやけん、ひとりで行けるやろ。

男　行こうや。

ネギシ　やだよ、もう俺足疲れたもん。

男　そちが子供やん。

ネギシ　ぱつと行ってきちゃってん。カニと待っとっけん。

間。

男　すぐ戻る。

ネギシ　おお。

男　出る。

見送るネギシ。

ネギシ　なんか、台風近づいて来とるみたいですね。

女 台風ですか？

ネギシ この調子やと花見の前に桜が散るんじゃないかって、ニュースが。

女 もう桜咲いとるんですか。

ネギシ 八分咲きですよ。その窓から見えんですか？ 下の桜は

満開やったけど……ああ。あれでしょ。

女 ……

ネギシ あいつ花見好かんから。もう昔っから。

女 昔から。

ネギシ なんか桜見ると気持ち悪いって、全然寄り付きもせん。

女 へえ。

ネギシ ほら、あいつ自分のことあんまり話さんけん、ねえ。

女 はあ。

ネギシ 住んどるんですよ、一緒に。

女 ……はい。

ネギシ まさかおると思わんで、昨日は本当、すんませんでした。

女 いえ、ちよつと驚いたけど。

ネギシ ですよ。こんな見ず知らずの男から「お母さんですか」なんて。

間。

女 私。

ネギシ はい。

女 そんな老けて見えますか。あの人のお母さんと間違えるくらい……。

ネギシ いや、あの。昨日は暗かったし、こんだけの隙間やったから。

女 そうですか。

ネギシ (女の足を見ている、ような) あいつのお袋さんと会ったことは？

女 (足を隠す) いえ。

ネギシ (女の顔をまじまじと見て、次第に近づく) なんで昨日、あんなこと言ったか、自分でも分からんとですよ。

女 あの。

ネギシ 地元ってこの辺ですか？

女 まあ……。

ネギシ なに中？

女 なに中？

ネギシ 中学校。

女 別にいいじゃないですか。

ネギシ ……。(女から離れて) すんません。出身中学聞くの、ついくせで。……首、赤くなってますけど。

女 ちよつと、寝違えて。

ネギシ 寝違えて首は赤くならんでしょ。

女 ……そうですね。

ネギシ あいつとは長いんですか？

女 いえ。

ネギシ いつから一緒に？

女 去年の四月から。

ネギシ 四月、じゃちようど、

女 一年、ですね。

ネギシ そうですか。

女、何かに気づきその方向を振り返る。

ネギシ あの……？

女 ……。

間。

女 あ、すみません、なんか聞こえた気がして。

ネギシ ありますよね、そういうの、空耳。……今お仕事は？

女 なにも。

ネギシ そうですか。あいつ仕事の時間不規則やし、家にずっとおってくれるんなら、それはそれで、ねえ。

女 はあ。

ネギシ 色々助かっているとありますよ。手、怪我してるみたいだし。しかも利き手、いや、違うか。あれ？

女 あの人、左利きって。

ネギシ ボール、右で投げよったと思うけど。(自分の右手見ながら)出来たマメの見せ合いばしよったし。

女 ……。

ネギシ 俺ら部活が一緒やったけん。

女 部活？

ネギシ 野球部。

女 野球部。

ネギシ カワシマも同じ野球部で、さっき話よった人。

女 出世するって人。

ネギシ そうそうそう。あいつ、上に立つようになったらストレスで(頭皮を指し)やばいかもね。カワシマ知らんか。

女 やばい？

ネギシ カワシマって中学から気にしとって。じいさん以外全員ハゲてんだって。自分は隔世遺伝で絶対ハゲんって言っとんやけどね。

女 ……。

ネギシ カワシマ、知らんよね。

女 さあ。

間。

ネギシ こんな狭い部屋じゃ窮屈やろ。あいつ愛想なかし、不器用やし、自己中のB型やしね。

女 そんなこと。

ネギシ 間違った。

女 ……。

ネギシ Bは俺やった。あいつは確かAやったかな。

女 ……。

ネギシ ユキエさんには？ あったことあると？

女 私、あの人にお姉さんがいるって初めて聞いたから。

ネギシ へえ、そう。

男、手ぶらで入る。

ネギシ ああ、早いやん。……ビールは？

男 それを買えんかった。

ネギシ なん、財布忘れたと？

男 強盗が入ったって。警察とか、テレビ局とか来とって。

ネギシ どこに？

男 やけん、そのコンビニ。

ネギシ そのコンビニで？ そのコンビニで？

男 うん。

ネギシ ……俺そういうのは引つかからんよ。

女 さつきパトカーの音がしよったけど、それかいな。

男 ああ、たぶん。

ネギシ テレビ、テレビ見ようや。

男 うち、テレビないっちゃん。

ネギシ ない？ ちよつと見てくるけん、カニ。まだ食べんでよ。

ネギシ出る。

女 人いっぱいおった？ コンビニ。

男 うん、人ばかりやったよ。こんな時間に、みんななんしよるんやろ。

女 犯人捕まったと？

男 どうやろ。

女 誰か死んだ？

男 救急車は来とらんかったよ。

女 死んだ人、家族おったかな。

男 死んどらんって。

女 死んで会えんのと、生きとるけど、一生会えんのもって、残された人はどっちが幸せかいな。

男 どっちも幸せでいいんやない？ 生きとるのに死んだも同然って思われとる人もおるやろうし。

女 ……。

男 例えば、の話。…ネギシとなんか話した？

男 うん、ちよつと。

男 ちよつと？

女 血液型A型って。

男 俺？ ああ、うん。

女 野球部やったって。
男 二年の春に退部したけん、野球しよったのは一年の時だけ。
女 なんで辞めたと？
男 なんてやる、気持ちが悪えたんやろうね。
女 手、どっちが、
男 ネギシはさ、俺が野球辞めてから仲良くなったんよね。あいつ部活の帰りに家に来て漫画だけ読んで帰ったりさ。親父の帰りが遅い時は姉貴と三人で晩飯食ったり……。
女 ……。
男 うちさ母親おらんっちゃん。
女 おらんって。
男 中二の春に家ば出てね。
女 それで部活辞めたと？
男 それを理由にして辞めたのはあるかもしれん。
女 じゃ、あの人も知っとうと？ お母さんおらんってこと。
男 ネギシ？ 知っとうよ。

間。

男 夢って思ったらいいやん。
女 なにが？
男 外は現実で、ここはずっと夢ん中。さっき当たり前のことが夢じゃできんって言よったやん。
女 ああ……。
男 夢の中しかできんこともあるやろ？
女 ……。
男 だけん、今が夢って思ったらいいやん。いつか醒める夢と思っつて。当たり前のことができる現実にはいつか、戻れるんやし。……ね。
女 ……いつかっていつよ。
男 ……遠くはないけど……そんな近くもない……。
女 いつか、いつかって、もう嫌なん。いつか、いつか、いつか、いつか……。
男 じゃずっと夢の中におる？
女 夢見たら疲れる人から言われたくないし。

男 そうやね、ごめん。

男、包帯の上から右手を擦る。

女 ……病院、行かんでいいと？

男 よかよ。

女 一年経つのに……動かんってやっぱり……。

男 大丈夫やって。

女 ごめんね。

男 あれは手付いた俺が悪かったんやし。って言うか、金網が壊れとつたんがいかんとよ。

女 私が突き飛ばさんかったら……。

男 あん時、どっちに行こうと思ったと？

女 え。

男 ううん……。

女 さつき赤くなっとなつて言われた。

男 首？

女 赤い？

男 ううん。

女 なんてあんな溺れる夢ば見たんやろ。

男 その前、覚えとらん……？

女 その前……夕方……冷蔵庫から……。

ネギシ、入る、

男 人いっぱいおったやろ？

ネギシ ……うん。……あいつに会ってさ……。

男 誰？

ネギシ ……。

男 誰に？

ネギシ バタヤン。知らん？ 「ハミ珍中」のバタヤン。

男 ……。

ネギシ あ、テレビないんやっただね。深夜番組で司会しよった人。

男 知らん。

女 「はみだし珍道中」？

ネギシ 「はみだし珍道中」 バタヤン今ニュース読みよるよ。路線変更。

女 「はみ珍中」は？

ネギシ 十二月に終わったもん、去年の。

女 そうなんや。

ネギシ とうとうバタヤンも（深夜番組でやってたであろう妙な振り付けで）シフトーチェンジ！

男 ……

ネギシ 子供の頃になりたかった職業を体験するって…、そんな番組。

男 へえ。

ネギシ ……大丈夫なん？

男 大丈夫って？

ネギシ なんて言うか、生活できとるん？ いやテレビないんやろ？ 携帯も持っとらんし。

男 ラジオと公衆電話で充分やん。

ネギシ ラジオと公衆電話って。（女に）携帯はあるんでしょ？

女 去年陸橋から落としてそのまま。

ネギシ リッキョウ？ 線路に落としたん？

男 携帯ってよく落とすって言うね。

ネギシ （寝転がり）お前が言うかね。

ネギシ 横になる。

女、散らかった洗濯物を片付ける。

男 寝るなって。

ネギシ ……

男 寝るなら帰えり。

ネギシ 中学ん時さ。

男 うん？

ネギシ 部室で着替えよったやん。

男 なん、急に。

ネギシ 冬、部室めっちゃ寒くてさ、ヒーヒー言っただけで着替えとんの、カワシマが冬でも帽子はメッシュがいいとかって真剣に頭皮の話するんよ。バカやろ？

男 バカやね。

ネギシ 俺さ、カワシマが急に大人に見えてさ……その夜、こつそり親父の育毛剤、真似して使ったりしてね。

男 それで？

ネギシ 別に。思い出しただけ、（起き上がり）よし。

男 ビールはいいと？

ネギシ いいや、またあいつに会おうと嫌やし。

男 バタヤン！

ネギシ 違うよ、タムラだよ、タムラ。こんな時間に仕事の帰りやって。なんやっとなるんかね。

男 タムラさんって誰なん。

ネギシ タムラ？ 同僚、元同僚で、上司。今は俺の上で仕事しとるけんね。

男 へえ。

ネギシ 同期で入社したんやけど、まあ、タイミングとかあるやん。俺は上に立つタイプじゃないけん、興味なかし。

男 そう？ 俺はお前のことできるやつって思っとるけど。

ネギシ ダメダメ。……タムラもさ、仕事辞めたい辞めたいうるさいくらい言っとったんやけど。仕事辞めたいやつほど出世するんかね。

間。

女、毛布を肩に羽織り、じつとふたりの会話を聞いている。

ネギシ 携帯電話を見る。

ネギシ ふふ……。

男 電話？

ネギシ メール。噂をすれば。「早く食べた方がいいと思うんだけど」だって。

男 カニの話？

ネギシ さあね、あいつ本当食い意地が張っとうけんね……。

男 そんなに好きならタムラさんも、

ネギシ あのさ。

男 なん。

ネギシ お前もこれから結婚とか、まあ、将来あるやん。そうやって怪我とかさ、事故とか病気とか、いつなんがあるか分からんやろ。強盗に殺されるかもしれないし。

男 さっきのコンビニで誰か死んだん？

ネギシ いや、例えばね。でももしコンビニで強盗と鉢合わせとつたら、その可能性はあるやん。

男 まあ。

ネギシ そういうのひつくるめて不安材料を減らしてさ、万一に備えて、毎月の小額の積み立てで安心を買うつて言うの大袈裟やけど。安心があるとないと同じや。

男 ……。

ネギシ ああああ。

男 なん。

ネギシ なんでんなか。安心ってなんやろうね。

男 ネギシ、やっぱりお前。

ネギシ なんでんないつて。とにかく、体だけには気をつけろや。

男 おお。

ネギシ ……。

男 大丈夫？

ネギシ 俺？ 大丈夫やろ？

ネギシ、伸びをしながら寝転ぶ。

男 だけん寝るなつて。

ネギシ、ユキエからの手紙を読み返す。

男 姉貴、元気しとつた？

ネギシ おお。そんな頻繁には会いよらんよ？

男 別に会ったらいいやん。

ネギシ 同窓会の写真、ユキエさんに見せたんやけど、二次会の写真にお前、写っとらんかったんよね。

女、洗濯物の中から靴下を探し、片足はくも、もう一方が見つかからない。

男 ふうん。

ネギシ 二次会、本当はおらんかったやろ。

男 (片方の靴下を見つけて女に渡す) おったって。

ネギシ どっちでもいいんやけど。あのさ、ふたりはどういう関係なん？

男 どういうって。

ネギシ 一緒に住んどるんやろ？ 一年も。

男 お前来た時、間違えたって言よったけど、そういう風に見える？

ネギシ (起き上がり) 見えん、見えん、全然見えん。

男 そげん強く否定せんでも。

ネギシ するよ。

女 もう気にしとらんけん、その話はもう。

ネギシ はい。ああ、お前みたいなやつが抜け抜けと幸せになるんやろうね。

男 はあ？

ネギシ 朝起きてタバコ吸って、仕事行って、タバコ吸って寝る。

男 なんそれ。

ネギシ で、いつも手にはコンビニの袋さげてさ。どう思う？

男 どうって言われても。
ネギシ 入社したすぐにさ、親父が給料は我慢した自分への我慢料だと思えって。そう思って働けてさ。俺も仕事ってそういうもんで思っとるし。

男 お前真面目やもん。部活だって、俺は途中で辞めたのに、ネギシはキャプテンまで務めて。

ネギシ それはお前の……ユキエさんのおかげなん。

男 姉貴が？

ネギシ 「部活の帰りにまたご飯食べに来ちゃって」って。

男 わからん。

ネギシ 俺もわからん。

間。

ネギシ ふたりは考えとうと？

男 なんを？

ネギシ 結婚。

女 ……結婚しとるっちゃん。

ネギシ ……そうなん？ それならそうって早く言いよ。ユキエ

さん知つとうと？

男 いつから…。

女 いつかな……六年経ったくらい。

男 六年……子供は？

女 おるよ。

男 ……カニ食べようか。

ネギシ どうゆうこと。

女 ひとつのね、歯車が壊れたら本当に全部止まってしまおうと。

自分でもおかしいくらい。今まで信じてやってきたことが全部な

くなつた瞬間、何もかも放り出してしまいたいって思った。

ネギシ 逃げ出したってこと？

女 逃げるとかさそんなやなくて。……ただ自分が嫌になつて、

もう消えてしまいたいって、なにもかもが嫌になつて……。

男 カニ……食べようや。

男、カニの箱を開けようとする。

ネギシ、男の包帯のある右手を強く掴む。

ネギシ お前ちゃんと聞けや。

男 ……カニ、食べようよ。

ネギシ ……。

男、ネギシの手を振り払う。

ネギシ 自分が嫌になつたかどうかは知らんけど、みんなそんな
ん抱えとるし、あんただけがそうやって、

女 友達も同じこと言よつた。私と同じだつて笑ってくれるけど。
人の気持ちは良く分かるけど、自分の気持ちなんか誰も分かつて
くれんって、みんな本当はそう思つとるんやないん？

ネギシ こいつの気持ちは？ 一年もこんなところでなんがした
いん？

女 ……。

ネギシ 家族ほっぽり出してさ。

男 それは俺が。

ネギシ なん。

男 俺がさせたん。

ネギシ だけんなんを？

男 この人をここに閉じ込めたんは俺やけん。

ネギシ はあ？

男 ……。

ネギシ なんそれ。まるで監禁しとるみたいな言い方……して。

男 ……。

ネギシ 自分が嫌だの、気持ちはどうのってそういうの……なん
かめんどくさ。俺帰るけん。

ネギシ、カニの箱を置いたまま立つ。

ネギシ じゃまた。来週の金曜、カワシマの出世祝いな。

ネギシ、去り際。

ネギシ やあめた。カワシマの出世祝い、するのやめよ。

ネギシ出る。

男、ゆっくりと包帯を取り、カニの箱を

開ける。

箱をひっくり返す、空っぽ。

女 手、治ったん？

男 怪我が治るまで、一緒におってくれるって言ったけん。

暗転。

二幕

壁に掛けたカレンダーは四月。空っぽの箱が残されて、いるが部屋には誰もいない。開けっ放しの窓から桜の花びらが舞い込んでくる。女、入る。息を切らせて倒れこむ。続いて男入る、息が荒い、手にはコンビニの袋。
部屋に舞い込んだ桜の花びらに男驚く。

男 足、めっちゃ早いね。
女 言ったら、走るの得意って。でもダメ、苦しい。
男 俺も。
女 台風、近づいて来とうらしいよ。
男 台風？
女 追い風の中で走ると空中に浮いたみたいやった。空、走っと
うみたい。
男 ……
女 ねえ。
男 うん？
女 私、起きとうよね。
男 うん、起きとうよ。
女 こんな時間なのに、お客さん多かったね。
男 うん。
女 みんな、ニュース見て来たんかな…ふふ。
男 なん。
女 強盗って言うけん。
男 ああ。
女 どっかのベットやったんかな。
男 野生やったら怖いよ。
女 そうやね。
男 あんな動物飼う人の気が知れんけど。
女 逃げ出したんかな。飼い主が見つかるといいけど。

男 捨てられたかもしれんよ。
女 ちよつとだけ、外に出たかったただけかもしれんよ。……食べようか。
男 うん。

男、袋からおにぎりを出す。

男 はい、カニマヨ。

女、おにぎりを食べようとすする。

男、開いた窓を閉める。

女 食べんと？
男 うん……。
女 そっちがお腹空いたって言うけん。
男 そっちはお腹空いとらんって言いよった。
女 あ……。見たらお腹空いてきたんやもん。一緒に食べよ。
男 うん。
女 (おにぎりを一口食べて) おいし。……あの日、同窓会の帰りやったんやね。
男 うん。
女 二次会の帰りやったん？ それとも。
男 ……。
女 今日が一年前の今日やったら良かったのに。

男、窓から離れて女に近づく。

女 酔っ払って、陸橋から携帯落として、知らない男の人とこうやってはしゃいで……知らないってことはないか。

男、女の首に手を伸ばす、が。

女 ネギシくんって、三年二組のネギシくんやろ？
男 名前……は？ 君の名前……。

間。

男 俺の名前は、
女 ダメ。

男 ……ずっと一緒におう。なんも聞かんし、なんも言わん。
今日みたいな外にだつて自由に出たらいし。

女 あん時は線路に落ちた携帯見ても、なんも思わんかった。でも今は違うと。

男 台風が過ぎたら……過ぎるまでここに。

女 ずっと夢ん中やった。

男 ……。

女 長すぎたもん。

男、女へ抱きつく。

長い間。

男、女から離れる。

女、立ち上がり、部屋を出ていく。

男 ……いってらっしゃい。

女 ……。

男 いってらっしゃい、いってらっしゃい、いってらっしゃい、い
ってらっしゃい……、いってらっしゃい！

女 いってきます！

女、出る。

男、コンビニの袋からおにぎりを出す。

ひとくち、またひとくちとゆっくりかみ締め食
べる。

ゆっくり、ゆっくりと……。

おわり